

第4回 明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会（議事要旨）

日 時	2024 年(令和 6 年)8 月 25 日(日) 13:00～15:30
場 所	明石市役所分庁舎 4 階 教育委員会室
出席者	石原会長、石山委員、齊藤委員、岡平委員、河田委員、楠目委員、瀬能委員 小田委員、増田委員
議 事	【報告事項】 (1) 公開検討会及び市議会各会派の意見 【審議事項】 (2) 財政白書(たたき案)
配布資料	・次第 ・公開検討会(市民参加型ワークショップ)の意見概要 資料1 ・市議会各会派の意見概要 資料2 ・(仮称)みんなでつくる財政白書 本編(たたき案) 資料3 ・(仮称)みんなでつくる財政白書 資料編(たたき案) 資料4
事務局	総務局財務室財務担当

1 開 会

2 検討会委員による審議

(1)公開検討会及び市議会各会派の意見

※事務局から資料説明 ([資料1](#)・[資料2](#))

(2) 財政白書(たたき案)

※事務局から資料説明 ([資料3](#)・[資料4](#))

(会長)

- ・ 本日の検討会のメインは、資料3(本編)の検討である。
- ・ 一定の意見の集約を行うため、目次案に記載のパートごとに検討していく。
- ・ 資料3は26ページだが、製本する際は4の倍数になるのか。

(事務局)

- ・ 財政白書の策定にかかる費用について、企業版ふるさと納税による寄附を募ろうと考えており、協賛いただいた企業の広告のページが追加される予定である。
- ・ 本日の検討会の意見により、ページを追加することも考えられるため、1ページの余裕を持たせている。反対にページを削減することもありうる。

～表紙についての検討～

(A委員)

- ・ 冒頭のマンガが印象的なので、このマンガのキャラクターを前面に持ってきた方が統一感が出るのではないか。
- ・ マンガに続く資料に家族と市職員のイラストが入るようだが、これはマンガのキャラクターがそのまま出てくるイメージか。

(事務局)

- ・ あくまで事務局案であるが、そのように考えている。

(A委員)

- ・ そうであれば、やはり全体的な統一感を出すため、明石らしさが分かる写真やイラストと組み合わせて、マンガのキャラクターが登場する表紙がよい。

(B委員)

- ・ せっかくマンガがあるので、表紙にもマンガを使った方がよい。
- ・ P22のイラストや街中の風景などを用いた表紙がよい。

(会長)

- ・ 「東経135°のまち」のように明石市の財政白書であることが分かるようにすることも考えられる。

(A委員)

- ・ 表紙を見て中身を読みたいと思ってもらうためには、表紙に中身を少し載せておく方法も考えられる。
- ・ どんな人に、どういうときに読んでもらいたいのかによって表紙のデザインは変わってくるので、対象をどこにするのかを絞っていく必要がある。

(C委員)

- ・ 目次のタイトルは堅い表現になっているが、「〇〇が知りたい方はこちら」のように、市民それぞれが読みたいページにアクセスできるアシストがあれば読んでもらいやすいのではないか。

(D委員)

- ・ 資料の大きさや開き方はどういう想定なのか。

(事務局)

- ・ 資料はパワーポイントで作成している。一般的に財政白書は縦向きが多いので、今回は違った視点で横向き・横開きとしている。
- ・ あくまで事務局案であるため、この点も含めて検討いただいて差し支えない。

(D委員)

- ・ 持ちやすさを考えるとA5サイズがよいと思う。できるだけサイズは小さく軽くすることが望ましい。
- ・ 一方で、世代によっては小さくなりすぎると読みづらいことも考えられる。また、若い世代であればQRコードを載せて、データで見てもらおうという形式で十分かもしれない。

(E委員)

- ・ 冊子で見ると縦開きの方が個人的には見やすいと感じるものの、横開きで作成された事務局案も、中高生向きにきっちりと整理されていると思う。
- ・ 表紙は一目で明石市のものであることが分かるよう、海岸から見える明石海峡大橋や海などを用いるとよい。
- ・ 目次と内容が視覚的に一致するようにしてほしい。文言は一致しているが、各ページの左上にあるタイトルやコラムがすべて同じような四角で囲まれており、視覚的な区別が付きづらいと感じる。
- ・ 目次の文言は、各項目が何についての内容なのか分かるような作り方がよい。

(F委員)

- ・ 表紙は「あかし十景」をマンガのキャラクターが訪れているようなイメージがよい。
- ・ 例えば、タイトルが「明石の財政の今までとこれから」であれば、目次には「今までを知りたい方はこちら」「これからを知りたい方はこちら」とするなど、タイトルと合わせた目次にしてはどうか。

(会長)

- ・ 以上を踏まえて、事務局案をまとめていただく。

～1 明石市の財政のはなし(まんが)についての検討～

(F委員)

- ・ キャラクターの年齢設定はあるのか。何年生なのかを明らかにした方がイメージしやすい。中学1年生と小学1年生など。
- ・ 上のこどもは市職員に質問するシーンがあるので中学生が妥当と感じる。下の子どもはやや幼い印象を受けるが、最後の方の発言内容を考えると未就学児では設定として厳しいと感じる。
- ・ P7の左下のコマにも、市民の目線が入っていた方がよいと思う。例えば、「今の財政状況は良好だけど余裕があるわけではない。限られた予算の中で市民の皆さんと一緒に考えて、使い道を選択していく必要がある」という意味合いの言葉になれば、後ろのページにも繋がっていく。

(B委員)

- ・ こどもの医療費や給食費の無償化などの「5つの無料化」について、財源がしっかりと確保できているのかという心配の声がある。マンガの家族が質問していく中で、ちゃんと財

源が確保できていて、その根拠として後ろに資料が続いていくことを示せるとよい。

- ・ 無料化の財源が大丈夫なのかというコマがプラスできればと思う。

(会長)

- ・ 財源の議論は個人的に非常に重要であると思う。
- ・ 事務局も財政の担当として、市民の皆さんに問いかけたいところだと思うので、今出たようなテーマが入るとよいと感じる。

(G委員)

- ・ マンガの最後の場面が最も大事で、ここにどのようなメッセージを入れるのかを考えると、予算も決算もみんなで確認し合っているという部分であると思う。「みんな」には市議会だけでなく市民も含まれている。財政白書を読んでいくことに繋がる呼びかけのようなものがここにあっていいのではないか。

(会長)

- ・ なぜこの財政白書があるのかということがマンガの終わりに少し出てくるとよいと思う。

(A委員)

- ・ P26を見たときに、この財政白書は財政の現状を伝えるだけではなくて、市民の皆さんに対して呼びかけるものであるという目的がはっきりしたと感じた。
- ・ P26には「自分の家計のように、明石市の財政に関心を持つこと」と記載されており、これがすべての結論のような気がしている。
- ・ それらを踏まえてマンガを見たときに、「負担し合う」という言葉がピンと来ない。「自分たちにもできることがあって、それを知っていこう」という終わり方であれば、P26にも繋がるのではないか。

(会長)

- ・ マンガと資料後半の関連性を意識するという整理をさせていただく。

(C委員)

- ・ 「負担し合う」という言葉が気になる。「負担」はどうしてもネガティブなイメージがある。例えば「みんなで作り上げていく」というような言葉に変えた方がよい。
- ・ 資料全体に言えることだが、みんなの意見が市政に反映されるという点をもう少し強調した方がよい。

(会長)

- ・ 財政の担当からすると「負担」という言葉は自然であるが、市民の方にお伝えするにあたり、委員の皆さんのご意見を聞いていると、「負担」の持つイメージがそれぞれで異なることが分かる。
- ・ 「負担」という言葉を言い換えることの難しさもあるが、取り組んでいかなければならない。

(D委員)

- ・ 「限られた予算の中で最大限に」「有効に活用する」などの言葉に変えることで明るいイメージになるかもしれない。

(H委員)

- ・ 全体的に言葉遣いがネガティブな印象を受ける。
- ・ 財政状況が改善し、人口が増加している現状は、市民が政治選択をした結果なので、ポジティブなことについてはポジティブな表現にした方がよい。

(会長)

- ・ 今の資料に追加の余地がある項目を2点挙げさせていただく。
- ・ 財政を良くしようとすると長期的な投資を削減して目の前の課題を無難に解決していくことが考えられる。しかしこれではインフラの更新が遅れるというような潜在的な問題が隠れており、このような点を市民の皆さんに伝えることも必要ではないか。
- ・ 市議会議員も予算について真摯に議論をされているので、そのような1コマを加えた方がよいのではないか。

(E委員)

- ・ こどもが転んで医療費が無料であることへ繋げているのは身近な題材で分かりやすい。
- ・ 予算や決算の審議において市議会は非常に重要な役割を担っており、その市議会の議員を決めているのは私たちなんだということも市民の方に伝わればよいと思う。

(会長)

- ・ 歳入の要素として、公共料金や受益者負担のあり方を見直す可能性を残しておいた方がよいと思う。
- ・ 市職員には名字が設定されているが、キャラクターの名前という視点で何か意見はあるか。

(D委員)

- ・ 名前があった方がストーリーは分かりやすいが、諸々の事情を考えるとなくてもよいと思う。ただ、名前がないなら、一人称を「私」にするなどの工夫は必要かもしれない。

(A委員)

- ・ 名前があると情報量が多くなってしまうと感じる。

(会長)

- ・ 財政の担当者が、本来は市長が述べるような市政全体についての発言をしていることを気にされる方がいるかもしれないが、その点についてはどうか。

(D委員)

- ・ 財政の担当者の説明を受けた家族が「市はいろいろなことを検討してやっているんです

ね」という趣旨の発言をしてはどうか。

(H委員)

- ・ 市役所に行って市長に会えることはまずないことなので、財政の担当者が代わりに教えてくれるという流れは自然であると思う。

(G委員)

- ・ 財政白書の中身とは別の話だが、マンガでのやりとりがウソにならないように、財政のことが気になる家族が来庁したら丁寧に説明しなければならないと思う。

(D委員)

- ・ タウンミーティングやまるちゃんカフェもあるようなので、財政に興味がある方はそういう場があることを盛り込んだり、最後に問い合わせ先を入れることなどが考えられる。

(F委員)

- ・ P5左下のコマにある歳入・歳出の金額は一般会計のことだと思う。後のページで特別会計や企業会計が出てくるので、違和感を与えないように、※などで注記した方がよい。

～2 明石市の財政状況を見てみよう についての検討～

(D委員)

- ・ 各ページの項目がすべて同じような数字の表記になっているので、ローマ数字を使うなど分けた方が見やすい。
- ・ マンガの家族と財政の担当者のやりとりを続けていくのだとすると、P8のタイトル行の下にあるリード文についても、「〇〇してきたの？」という表現にした方が統一感が出るが、ソフトになりすぎるおそれもあるので検討が必要と思う。
- ・ 市職員の説明が長いと感じる。きちんと説明しないといけないことは分かるが、文字が急に多くなると読む手が止まってしまうのではないか。

(C委員)

- ・ 資料4につながる参照番号のようなものがあれば、資料間の連携ができて、読み手の理解も深まるのではないか。
- ・ 情報量が多い。例えば、P8下部のグラフの緑の折れ線は見込みであり、これがなくても黒字・赤字、貯金残高は分かるので、健全な財政であることは伝わると思う。

(A委員)

- ・ 資料3が原稿となって、専門のデザイン事務所などに依頼をすることになるのか。それとも検討会メンバーでデザインを整えていくのか。

(事務局)

- ・ 企業版ふるさと納税で協賛いただける企業から寄付を募り、専門の外部業者に委託し

たいと考えている。

(A委員)

- ・ 外部に委託する場合、フォントサイズや見出しの表現方法など、いわゆるデザインシステムを決める必要がある。その中で一定以内の文字数に収めていないとそもそも入らないことがあるので、それを見越した上で進めた方がよい。
- ・ デザインは外部委託で整えられるので、検討会での議論は盛り込むべきコンテンツとして何があるか、どの部分は削ってもよいのかという部分に焦点を当てて検討すればよいと思う。

(会長)

- ・ そもそも財政状況を端的に示すことは非常に難しい。
- ・ 基金残高だけを見た場合、残高は増加しているので良好だと感じて、公共施設の老朽化など目に見えない部分が進行していることもある。これは貸借対照表などの財務書類を見れば専門家は理解できることだが、一般の市民にそれを説明しても誰も理解できない結果になってしまう。
- ・ 一方で、とにかく簡単なものを作る方向に進んでしまうと、伝えるべきことを伝えずにミスリードしてしまうおそれがある。
- ・ このような問題点があることを認識した上で検討を進める必要がある。

(F委員)

- ・ 色が表によって違うのがやや見づらく感じる。少なくともそれぞれのパートの中では色を統一させた方がよい。
- ・ マンガとそれ以降で市職員の口調が違うので統一が必要である。
- ・ 例えばP8の市職員の吹き出しは、「自治体の決算は常に黒字がいいというわけではありません。市民サービス向上のためにお金を使ってサービスを継続することも必要です」のような言い回しをすれば文字数を抑えられる。
- ・ 令和5年度決算の金額に置き換えた方がよい。

(事務局)

- ・ 9月議会で令和5年度の決算内容が公表されるので、次回の検討会までには反映する。ただし、他市比較は間に合わないと思われる。

(G委員)

- ・ P10の内容が難しい。比率そのものの難しさもあるが、専門知識がない人がこのページを見ても、県下市の中では比率が低いということしか分からないので、このページは削除してもいいのではないか。
- ・ 最近の大学のパンフレットは年々薄くなっており、詳細についてはQRコードで読み込んで確認するようにしている。本編と資料編の2種類を作るのであれば、QRコードとは言わないが、資料間の繋がりをもう少し考えてもよいと思う。

(H委員)

- ・ P10の2つの比率では財政状況は分からないとのことだが、一般的にはどのような指標で財政状況を判断すればよいのか。

(会長)

- ・ やるべきことに対してお金が準備できているかという観点で見っていくのが基本であり、市として収入と支出を中長期的にバランスさせていくことが、健全な財政運営の基本的な考えである。
- ・ P10の実質公債費比率は、今の収入の何%が借金返済に使われているかしか分からない。将来負担比率は、設備投資をするためのお金が借金となり、それを将来に向かって返していく上で、今の収入の何%の負担になるのかしか分からない。
- ・ 良いのか悪いのかは、国の基準に基づいてその数字だけを見て判断した結果に過ぎず、中長期的に収入と支出のバランスが取れているかが分かる指標ではない。
- ・ 現金主義会計では保有する資産と借金に関する情報が見えづらい。借金は歳入に計上されるので、実は黒字要素になる。借金が増えても資産が増えれば財政は悪くなるわけではない。
- ・ ここで問題となるのは、将来的に使わないと思われる施設に多額の費用をかけてしまった場合で、借金だけが残ることになる。ただ、この情報は比率だけを見ても分からない。
- ・ このような背景を認識した上で、市民に伝える際にどうすればよいのかを考える必要がある。

(H委員)

- ・ 企業のKPIでも1つの指標だけではなく、複数を組み合わせて分析し、全体がよくなれば財政の健全化につながる。自治体でもこの2つの比率以外に指標があったと思うが、それら全体の数字が良くなれば財政が良くなっていくという認識でよいのか。

(会長)

- ・ 国が定めた代表的な指標は全部で5つあるが、すべてお金だけを判断する指標である。
- ・ 自治体は何も市民サービスをしなければこの5つの指標は良くなるが、財政が良くなったところで市民サービスがなくなるのは本末転倒となる。
- ・ このような事情を考えながら市は財政運営をしているが、市民の皆さんにどう伝えるかである。

(H委員)

- ・ この2つの指標を削除してしまうと、基金残高しか残らなくなる。参考にはなるのであれば残した方がよいのではないか。
- ・ 指標を減らしてしまうと、実はすごく財政状況が悪いのではないかとと思われるので、客観的な数字で示すと説得力が増すと思う。

(D委員)

- ・ この2つの指標はあった方がよいと思う。
- ・ 現金主義会計と発生主義会計についての話があったが、現金主義会計の面から実質公債費比率を載せて、発生主義会計の面から将来負担比率が載っているという整理をし

た上でこの2つの比率が載っているのであれば問題ないと思う。

- ・ ただし、資料の説明は分かりづらい。数値が大きくなるとどういうことを表すのかを記載しないと、メッセージが伝わらない。
- ・ それぞれのグラフに込められたメッセージは、知識がある人であれば受け取れるが、一般の人が読むことを考えて、もう少し表に出した方がよいのではないか。
- ・ 「国の支援を受けながら」という文言は必要なのだろうか。

(A委員)

- ・ 「借金」という言葉から感じるイメージが人によって異なると思う。会社であればそれだけ信用があることを表すが、一般の人にとっては良くないものという印象が強い。
- ・ 将来に対する投資であり、借金は同時に資産を取得しているという話を盛り込まないと、お金が不足しているから借金をしていると受け取られるおそれがある。
- ・ 単純な数字で財政状況を判断できないことについては、数字以外の分かりやすいメッセージを入れることで、市民の皆さんにも理解してもらえないのではないか。

(会長)

- ・ P9に市の借金のグラフがあるが、運転資金としての借金は含まれていない。自治体の借金には何かの資産の裏付けがある。
- ・ これらのことを中高生にも理解してもらうにはどう表現すればよいか。非常に難しいとは思いますが、ここまでの議論を踏まえて、事務局に整理をお願いする。

(H委員)

- ・ これまでの検討会で資料の説明を受けてきて、市の財政状況はそれほど心配する必要がないという印象を持っているが、「余裕がない」「お金がかかる」と書かれているところがあり、ギャップを感じていた。

(会長)

- ・ 例えばインフラ資産やハコモノの更新を先送りし、手元にお金を貯めている状態である場合、見た目には貯金は増えて借金は減っているわけだが、これをどう評価するか。
- ・ 仮に財政面だけを考えるのであれば、老朽化した資産を放っておけばよいことになる。ただ、これでは本質的な部分を市民の皆さんに伝えられていないことになる。
- ・ 物価上昇が続く間は、予防保全的に施設をメンテナンスした方が、事後保全で修繕するよりも結果的に費用は少なくて済むが、予防的に行うことで目先の貯金は減り、借金は増えることになる。

(H委員)

- ・ 次年度には公共施設配置適正化計画の改定が控えており、その計画に繋げていくストーリーがやや見えにくい。
- ・ 財政上の問題点を挙げて、「市民の皆さんも協力してください」というストーリーがもう少し前面に出ればよいと感じる。

(会長)

- ・ P20の土木費については、市民にとって興味がある部分なので、事務局はコラムとして取り上げているのだと思う。結論としては、土木費は減っていない。
- ・ もしインフラや施設の老朽化が著しく進んでいるのに土木費を現状水準にしていると、それは更新が遅れることを意味している。このように中身の議論をどこまで行うかによって見えてくる問題もある。
- ・ 財政白書はあくまでも決算をベースとしたものであって、将来どのように市政を進めるのかは政策の話であり、市長、市議会、市職員の皆さんが市民の意見を聴きながら決めていくものである。
- ・ 市が公表している財務書類や施設ごとの耐用年数と老朽化具合を総合的に分析していくことまで踏み込むのかどうか。また、そこまでできないのであれば、予断を入れずに市民の皆さんにどう伝えればよいのか。これは非常に難しい問題である。

～3 明石市の「おさいふ」の中身

4 明石市の決算(歳入・歳出)を見てみよう についての検討～

(C委員)

- ・ P11の下水道のイラストは、トイレや風呂のほかに市のマンホールを使うと面白い。
- ・ P12の市職員の説明が長い。国県支出金についての説明だと思うが、何についての説明かを分かりやすく、短くした方がよい。
- ・ P15のふるさと納税について、一見すると寄附額を表す緑のグラフから、市外に流出した税金を表すオレンジのグラフを引くと、ふるさと納税の収支になると思ってしまう。下部の折れ線グラフの要素を上部のグラフに入れると視覚的に分かりやすいと思う。
- ・ P16のグラフの一部が切れている。
- ・ コラム3の人件費は、性質別経費と目的別経費の説明の間に入れてしまうと、何についてのパートだったのかが分からなくなるので、後ろに下げた方がよいと思う。

(E委員)

- ・ コラムは大きな記事の一部を構成するものというイメージだが、同じレベル感で並んでしまっていて読みづらさに繋がっている。
- ・ 市民が見る上で、目的別経費と性質別経費の両方を載せる必要があるのだろうか。
- ・ 色数が多い。

(会長)

- ・ 基調色を作って全体に統一感を持たせる方法もある。

(A委員)

- ・ 冒頭のページで項目ごとの色をまず決めたのであれば、それに紐づく色はすべてそれに統一するようにしないと、色を分けている意味がなくなってしまう。
- ・ 企業でよくあるのは、コーポレートカラーをまず基本の色として、もう1色目立たせたいものにアクセントカラーを付けるのが一般的である。

(H委員)

- ・ 視覚障害者の方が見やすい色にする方がよい。
- ・ 「国や県からの支援」という表現があるが、元々はみんなが納めた税金なので、「支援」という表現は誤解を招くのではないか。

(事務局)

- ・ 市民に分かりやすい表現として「支援」という言葉を使ったが、言い回しは検討する。

(D委員)

- ・ 資料は細かく説明してくれているので、ここから何を抜けるのかを考えることが大事である。載せたい言葉は山のようにあると思うが、取捨選択をしなければならない。
- ・ P21とP22で、伝えたいメッセージの違いはあるのか。もしそれぞれにあるのであれば読み手にはそれが伝わっていない。違いがないのであれば、どちらかは資料編でよい。
- ・ P21の「水道・下水道の経営安定に」が気になる。一般会計からの補填を意味しているのであれば、水道事業にはないのではないか。

(G委員)

- ・ P21はなくてもよい。
- ・ P22には6つの項目があるが、この6つが市民が最も興味がある6項目なのか検討した方がよい。

(会長)

- ・ P21を削除してP22の項目を増やしてはどうか。こども医療費のように大きい事業を入れた方がよい。

(F委員)

- ・ P21をもし残すのであれば、数字だけではなく円グラフで一目で割合が分かるようにした方がよい。
- ・ P11のように市職員の説明と、それ以外の説明文が重複している部分があるのでどちらかは削除できる。
- ・ 家族が質問している吹き出しは、家族の誰が発言しているかによって口調が変わることになる。

(B委員)

- ・ P15のふるさと納税で、ページ下部の折れ線グラフを合わせた方がよいという意見があったが、1本のグラフにするのではなく、別のグラフでプラスしてはどうか。
- ・ P16の円グラフのように、囲み線が文字に重なっているところがある。

(会長)

- ・ 国保、介護、後期高齢者にそれぞれどれくらいの繰出金があるのかをP22に追加してはどうか。規模としてかなり大きいと思われる。

(D委員)

- ・ コラム3の人件費は不要ではないか。人件費への風当たりという意味で掲載しているのかもしれないが、パッと見たときに何が言いたいのが分からなかった。
- ・ P15のふるさと納税は、バランスを意識して書いている印象がある。市として伝えたい主要なメッセージが何なのかははっきりしないと感じる。

～5 今後の明石市の財政はどうなるの？ についての検討～

(D委員)

- ・ P26のコラムには、検討会やタウンミーティングで実際に出た意見であることが明記されるのか。

(事務局)

- ・ 明記しようと考えている。資料はイメージを書いているだけなので、今日意見をいただければ反映させていただく。

(D委員)

- ・ 検討会やタウンミーティングを開催していることは重要だと思う。市民参画のもとで進めており、市が勝手に考えて書いたわけではないというメッセージが伝わるようにしてほしい。
- ・ イラストも「Kさん」のように、自分たちの身近な人から出た意見であることが分かるようにしてほしい。
- ・ 自治体から市民に対して「やってください」というのが今までのやり方で、今回の財政白書は、「私たちも何かできることはあるかな」という視点も重要だというメッセージ性を持たせることができる。

(G委員)

- ・ コラム5の内容が、すべて負担軽減という結論になってはいけないと思う。
- ・ 健全な財政運営というのは負担軽減だけではなく、お金をどう使うのかをみんなで考えていくという方向性もあると思うので、その面を伝えられるようにしたい。

(会長)

- ・ コラム5については、改めて委員の皆さんから、財政健全化のために市民の皆さんができることという観点で、意見を事務局に出していただくこととする。

(事務局)

- ・ 検討会で議論になった公共施設の老朽化の状況と借金については、資料4のP270が参考となる。
- ・ この資料を含めて、本編にどのように記載していくか検討していく。

3 その他(事務連絡)

- ・ タウンミーティングを11月9日(土)午後に開催予定

4 閉会